現在の心不全の考え方と糖尿病との関係

大西内科ハートクリニック 大西 勝也

KEY WORDS
●心不全
●糖尿病
●心筋症
●BNP

はじめに

心不全患者は年々増加しており，循環器疾患の最も重要な問題の１つとなっている。糖尿病が虚血性心疾患の独立した危険因子であることは周知されているが，糖尿病と非虚血性心不全との関係についてはいまだ明確ではない。糖尿病が心不全患者の約30％に併存しており[1)-4)]，またSGLT2阻害薬が心不全の発症を予防したとするEMPA-REG試験が発表され[5)]，糖尿病と心不全との関係が注目されてきている。本稿では，心不全のトレンドと糖尿病の関与について総説する。

Ⅰ．心不全のトレンド

心不全というとうっ血を思い浮かべやすいが，最近はうっ血の概念も大きく変わりつつある。胸部X線で認められる肺うっ血や臨床所見上うっ血症状を認める患者は，うっ血性心不全患者の約60％といわれている[6)]。糖尿病患者に併存するような慢性心不全においては，肺間質のリンパのドレナージ力が30倍以上増加している[7)]。そのため，左心房圧が高く左室に負荷がかかった状態でも，肺間質からリンパを介して水分成分が吸収される。結果として，臨床所見や胸部X線でうっ血所見を認めない場合があり，これを血行動態的うっ血という。

さらに，左室駆出率（EF）が低下している従来の心不全（heart failure with reduced ejection fraction；HFrEF）に対し，EFが保たれている心不全（heart failure with preserved EF；HFpEF）が，心不全患者の約40％を占めるといわれている[3)]。HFpEF患者は高齢者に多く，HFrEFに比べ，女性の比率が高い。併存症として高血圧が80～90％，糖尿病が30～40％を占める[2)-4)]。生命予後は，HFrEFと同様悪く[8)]，一度入院したHFpEFの５年生存率は約50％であり，早期発見して入院する状態に

How does DM contribute to the current concept of heart failure?
Katsuya Onishi（院長）

SAMPLE
Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.